

巻頭言 「その人のビジョン」

宇野 元

もう10年以上も経つのに、よく無事に保たれてきたものです。次女が小学生の頃、ティッシュペーパーで作った人形たちが、牧師館の隅に並んでいます。てるてる坊主を応用した簡単なものですが、赤いマジックペンで家族おのおのの表情が描かれています。脇に、カブト虫のおもちゃが置いてあり、セザンヌの画集から切り抜いて額に入れた、小さな小さな森の絵を覗いています。あるとき、何気なくカブト虫を別のところに動かしたら、叱られました。これら小さな物たちの配置には、ちゃんと意味があると。

人形たちは、ふだんは布で覆われています。子どもが来ると、人形たちの顔を見ることができません（布がめくられています）。過日、出張の息子が風のように泊まっていた翌日、人形たちに目をやると、すでに布が被せられているのに気づいてはっとしました。

忠実な手が、めくり、また覆う。そこに、その手の持ち主の心が宿っていると思います。その人の普段の姿より深く、またその人らしい仕草や表情より、もっと深く、その人の心、その人自身を表している。そして思います。物の配置が、その人のビジョンをよく伝えてくれると。

芸術家は、このことを知っています。パウル・クレーの言葉を思い起こします。「芸術は、目に見えないものを見えるようにする。」芸術が目に見えるようにするのは、芸術家のビジョン、すなわち芸術家が特別に見ているものでしょう。それを芸術家の作品を仲介にして、多くの人が見ることができるようになります。

神が、御子イエス・キリストをこの世界にお贈りくださいました。そして二人の犯罪人と共に荒削りの十字架に掛けてくださいました。ここに、私たちへの神の愛が、如実に示されています。

そして、御子の尊い犠牲と勝利による、神の豊かなビジョンが示されています。新しい世界と、私たちの新しい歩みの開始が。